

眼科で判明した肝炎ウイルス陽性者の紹介率・受診率向上を目指した研究

研究分担者：江口 有一郎 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター
研究協力者：高橋 宏和、磯田 広史、矢田 ともみ 同肝疾患センター
研究協力者：西村 知久 医療法人 YT 美川眼科医院

研究要旨：

2019年度に実施した佐賀県における肝疾患診療連携のアンケートによる現状調査では、肝臓内科を標榜しない多くの医療機関にもウイルス性肝炎患者が通院しているが、新しい治療法や医療費助成制度、紹介できる医療機関等に関する知識や情報の不足により、未治療患者が存在すると推測された。回答内容は主たる診療科毎に異なり、「肝炎ウイルス陽性者を必ず肝臓専門医に紹介する」と回答した割合が最も低い診療科である眼科から対策に着手した。佐賀県内に肝疾患センターおよび拠点病院と連携しながら、肝炎医療コーディネーターを活用して陽性患者の肝臓専門医への紹介率を高め、この眼科医院の協力を得て①肝炎ウイルス陽性者への説明用リーフレットを作成する、②陽性者への対応マニュアルおよびスキームを作成し佐賀県内の他の眼科にも展開する、ことにした。さらに佐賀県眼科医会の協力を得て、2021年5月に開催予定の九州眼科学会での講演でこの活動を紹介することとなった。今後は本研究班と日本眼科医会との連携による全国展開が期待される。眼科領域で肝炎に関する活動が広がるためには、眼科医師やスタッフの目線から考慮された資材やマニュアルの作成が必要である。

A. 研究目的

2019年度に実施した佐賀県における肝疾患診療連携の現状調査（厚生労働科学研究費補助金肝炎等克服政策研究事業「地域に応じた肝炎ウイルス診療連携体制構築の立案に資する研究」班）では、肝臓内科を標榜しない多くの医療機関にもウイルス性肝炎患者が通院しているが、新しい治療法や医療費助成制度、紹介できる医療機関等に関する知識や情報の不足により治療に進んでいない患者が未だに存在すると推測された。「肝炎ウイルス陽性者を必ず肝臓専門医に紹介する」と回答した割合が最も低い診療科である眼科において、紹介率を向上させるべく取り組みを開始した。本研究では眼科医療機関において、術前検査等で肝炎ウイルス陽性となった患者への、適切かつ効果的な説明の実施、陽性者の肝疾患専門医療機関への紹介および受診状況の改善

のためのスキームやツールを構築し、全国へ展開することを目的とする。

B. 研究方法

1) 肝炎ウイルス陽性者への説明リーフレットの作成

M眼科医院の医師や看護師と意見交換を行い、眼科の立場でリーフレットに求められる情報（知識の量や深さ、イラスト）や望ましい構成（配置・色使い・分量・サイズ等）をデザイナーとともに聴取した。リーフレット案を作成し、M眼科医院や佐賀県にも案の内容を確認してもらい、佐賀県版の眼科専用説明リーフレットを作成した。

2) 肝炎ウイルス陽性者への対応マニュアルやスキーム、資材の作成

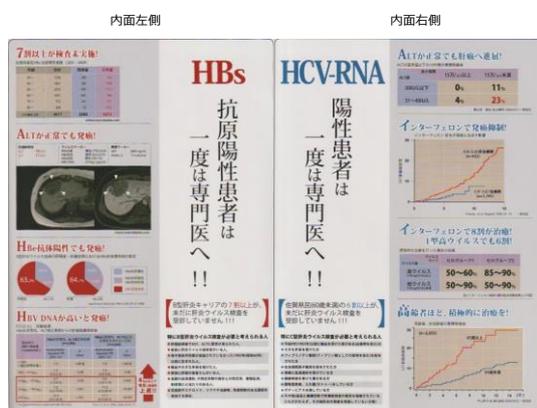
M眼科医院で使用されている、平成23年に作成された佐賀県肝疾患循環型診療連携

システムリーフレット(図1、2)を基に、M眼科医院スタッフと意見交換を行い、他の眼科医院が初めて肝炎ウイルス陽性者に結果を説明する際に患者に求められる情報や、期待するリーフレットの構成について聴取した。

図1 (佐賀県肝疾患循環型診療連携システムリーフレット:表紙・裏表紙)



図2 (佐賀県肝疾患循環型診療連携システムリーフレット:内側)



C. 研究結果

1) 肝炎ウイルス陽性者への説明リーフレットの作成

M眼科医院の術前検査は、内科かかりつけ医があればかかりつけ医に肝炎ウイルス検査を含めて依頼し、かかりつけ医がなければ自院で実施されていた。術前検査を要する手術・治療は白内障手術が最も多く、ほ

とんどが日帰り手術であった。肝炎ウイルス検査の結果説明は、術後まだ散瞳効果が残っている状態で、個室で行われていた。このため、説明資材の文字は大きくし、白文字は眩しいため避け、使用する際には背景色は濃い色を使用することが要望として挙げられた。

肝炎ウイルス検査の結果を説明するタイミングは、術前は手術内容や合併症等の説明を十分にすることがあり、また術後数日経つと近くの眼科に逆紹介したり、患者の関心が薄れてしまったりするとのことで、手術当日の術後安静が解除されてから説明が行われていた。

リーフレットに記載される情報や言葉遣いについて説明スタッフの要望を聴取した。具体的には、1) 手術後の患者にとっては眼科のことが関心の最優先であり、肝炎に関して「すぐに・直ちに精密検査に行きましょう」などの文言を用いてしまうと、「眼科よりも優先しなければならないほど深刻な問題なのか?」と患者を不安にさせることがあるため、回避したい。2) 患者によっては精密検査という言葉は特殊な検査を連想させ、不安を煽るため、精密検査を具体的に示してほしい。3) 眼科スタッフとしては、肝炎そのものや各種助成制度に関する詳細は、自信をもって答えることができないので、情報量は必要最小限にしてほしい、などが要望として挙げられた。

専門医療機関のリストは、当初リーフレットに盛り込む予定であったが、ウイルス陽性の説明時に、リストを見せながら患者と受診医療機関の合意を得て紹介状を作成するため、患者がリストを持ち帰った後で医療機関を変えたケースが無かったことから、医療機関リストはリーフレットそのものへ掲載せず、毎年更新されたリストを別紙で提供するよう要望が出された。

こうした意見を踏まえ、A4裏表一枚の説明用リーフレットを作成した(図3、4)。

患者へ説明する際には、リーフレットの表面のみを見せながら説明する。メッセージは「肝炎ウイルスに感染している可能性があるので、まずは肝臓専門医を受診して精密検査を受ける必要があること」のみとした。精密検査は、血液検査と腹部超音波検査のみであることを示した。医学的な質問に関する問い合わせ先を下部に記載し、説明者の責任や負担を軽減するよう配慮した。

裏面は患者が帰宅後に読むことを想定して作成した。精密検査の速やかな受検を促すために、研究班で使用している肝炎の病態進行図を載せ、放置することで病状が悪化する危険性を示した。精密検査では県に申請することで医療費の補助が受けられることを示し、その問い合わせ先である県や保健所の連絡先を記載した。

(図3：リーフレット表面)

肝炎検査「陽性」だった方へ

あなたは **ウイルス感染の可能性**があります

まずは

肝臓の専門医がいる病院で **必ず、精密検査を受けましょう**

本当にウイルスがいるか精密検査で確認する必要があります

精密検査は以下の2つ

採血検査
・ウイルス量の検査
・ウイルスの型の検査

超音波検査
・血液検査でわからない肝臓の状態を確認

肝炎に関する質問・相談は **TEL 0952-34-3731**

肝臓なんでも相談窓口(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター)

(図4：リーフレット裏面)

精密検査をできるだけ早く受けましょう

肝臓は自覚症状がないまま病気が進行し、肝硬変、肝がんの段階でさえ、症状がないこともあります

正常な肝臓 → 慢性肝炎 → 肝硬変 → 肝がん

検査費は無料ですぜひ検査に関する助成制度を利用しましょう

助成制度の利用で対象の精密検査を自己負担なく受けられます

精密検査費助成制度

精密検査を受けた後、保健福祉事務所に助成の申請をしてください
対象の検査費用が全額戻ってきます(※)
※初めての精密検査を、県が指定する医療機関で受けた場合

▼助成金に関する詳しい情報は「がんポータルさが」で検索

がんポータルさが

助成金に関する質問・相談は **佐賀県健康増進課 がん撲滅特別対策室**

TEL 0952-25-7491

管轄の保健福祉事務所

| | |
|---|------------------|
| 佐賀中部保健福祉事務所 (佐賀市・多久市・川棚市・神埼市・吉野ヶ丘町) | TEL 0952-30-1905 |
| 鳥栖保健福祉事務所 (鳥栖市・藤川町・上峰町・小水町) | TEL 0942-83-3579 |
| 唐津保健福祉事務所 (唐津市・玉津町) | TEL 0955-73-4186 |
| 伊万里保健福祉事務所 (伊万里市・有明町) | TEL 0955-23-2101 |
| 杵築保健福祉事務所 (杵築市・基山町・藤原町・大野町・江井町・白田町・大野町) | TEL 0954-22-2104 |

2) 肝炎ウイルス陽性者への対応マニュアル・資料の作成

現在、ヒアリングを実施中である。実務的なマニュアルであるとともに、肝炎に関する基本的な知識の学習や確認ができる内容が望まれた。具体的には、

- ・肝炎ウイルス検査の意味・意義
- ・放置すると肝炎が悪化する危険性
- ・M 眼科医院での運用マニュアル
- ・対応の上でのコツやトラブルシューティング
- ・紹介できる肝疾患専門医療機関リストが情報として望まれた。

今後研究班と連携してデザイン化を勧めていく予定である。

D. 考察

眼科などの非肝臓専門の医療機関に求められる役割としては、院内に存在する陽性者を、確実に肝臓専門医への受診につなげることがまずは最も重要であると考えられる。

M 眼科医院の取り組みが他の眼科医院にも広がっていくためには、多忙なスタッフでも受診勧奨が行える、可能な限り最小かつ効率の良いツールやマニュアル・スキーム作りが重要である。今年度は佐賀県の眼科医院で使用するリーフレットを作成した。さらに、他の眼科医院向けに情報や対応マニュアルを確認できるリーフレットを作成中であり、来年度は研究班内でのディスカッションを踏まえ、全国で使用できる様に作業を勧めていく予定である。

3. その他
なし

E. 結論

眼科での専門医への紹介率・受診率を向上させるべく取り組みを開始した。今後は効果検証の方法や他専門領域への展開も検討しながら取り組みを続けていく予定である。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

なし

<研究活動に関連した実務活動>

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし